

1 安全農業推進部の業務実績

(1) 指導・有機認証課の業務

ア 農薬に関する業務

農薬取締法に基づき、農薬販売の届出受理、農薬販売者に対する立入検査等を実施した。このほか、農薬適正使用、航空防除等の指導を行った。

(ア) 農薬販売届の受理(令和8年3月31日現在)

新規届出	変更届出	廃止届出	販売者総数
36	23	25	1,211

(イ) 農薬販売者立入検査(令和8年3月31日現在)

立入検査 延べ数	注意指導票による指導実件数							
		販売の 制限、禁 止	虚偽宣 伝等の 禁止	販売所 の届出	帳簿の 備付、記 載、保管	その他 (表示等)	指導延べ 件数計	左のうち 改善済み 件数
241	19	0	0	3	16	0	19	19

(ウ) 主な農薬適正使用指導記録

月 日	内 容	受講者数
7月1、3日	農薬危害防止講習会	250
11月25、26日、12月2日	農薬適正使用アドバイザー認定・更新研修	127
11月25、26日	農薬管理指導士認定・更新研修	26

(エ) ゴルフ場の検査・指導

農薬使用実績に基づく適正使用確認件数	35
福島県ゴルフ場農薬安全使用指導要綱に基づく立入検査	7

(オ) 航空防除(無人航空機)に関する指導

()内は前年比

無人ヘリ防除 実施面積	6,565.4ha(88.6%) 内訳：水稲 6,377.2ha(93.6%)、大豆 178.2ha(39.4%)、松 10ha(100%)
マルチローター計画 面積(殺虫剤 のみ)	9,119.1ha(145.2%) 内訳：水稲 8,691.5ha(147.2%)、大豆 419.9ha(113.2%)、野菜 7.8ha(132.9%)、 果樹 0.0ha
農薬事故発生 状況	0件
指導対応状況	防除実施者、ドローンスクール等に対し、農薬適正使用、周辺住民等への事前 情報提供、飛散防止、作業事故防止、事故発生時の報告方法等について郵便、 電子メールで周知し、併せて防除所のホームページ等で農薬適正使用、県ガイ ドライン改正等を掲載、周知した。

※小数点第2位を四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

(カ) 農作物病虫害防除指針掲載農薬登録変更内容の確認とホームページによる周知

防除指針掲載農薬の登録内容変更に関する情報	12回
-----------------------	-----

(キ) 農薬流通量調査

令和 6 年 10 月～令和 7 年 9 月までの期間(令和 7 農薬年度)を対象に、農薬卸売業者及びホームセンターから農薬販売量の報告を求め、県内の流通量を取りまとめた。

分 類	令和 7 農薬年度		令和 6 農薬年度	
	流通品目数	流通量 (t, kl)	流通品目数	流通量 (t, kl)
殺菌剤	260	598	282	647
殺虫剤	309	1,288	326	1,297
殺虫殺菌剤	163	817	173	814
除草剤	466	2,474	538	2,390
その他	131	4,275	137	4,693
合 計	1,329	9,452	1,456	9,841

※小数点第 1 位を四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

イ 農作物の野生鳥獣被害取りまとめ

令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月までの期間を対象に、各市町村から野生鳥獣による農作物の被害状況の報告を求め、県内の被害状況を取りまとめた。令和 6 年度の総被害面積は令和 5 年度の 99.2 %、総被害金額は令和 5 年度の 105.7%となった。

分 類	令和 6 年度		令和 5 年度	
	被害面積(ha)	被害金額(千円)	被害面積(ha)	被害金額(千円)
鳥害	8.74	47,903	9.06	36,014
獣害	79.65	102,727	80.03	106,545
合計	88.39	150,630	89.09	142,559

ウ 肥料に関する業務

肥料の品質の確保等に関する法律に基づき、知事登録肥料の登録申請等受理及び保証値の分析、指定混合肥料・特殊肥料・肥料販売の届出の指導や受理、生産業者等への立入検査及び収去を実施した。併せて、県の指導要綱に基づき、竹粉等の有機質土壌改良資材の利用再開申請の対応を行った。

また、県内の肥料の生産量や県内の肥料流通量(入出荷量)の調査を実施した。

(ア) 知事登録普通肥料 登録・届出受理(令和 8 年 3 月 31 現在)

新規登録	登録更新	変更届出	失効届出	登録件数
2	11	7	0	48

(イ) 指定混合肥料届出受理(令和 8 年 3 月 31 現在)

新規届出	変更届出	廃止届出	届出件数
1	2	0	14

(ウ) 特殊肥料生産・輸入届出受理(令和 8 年 3 月 31 現在)

	生産(輸入)業者届出	変更届出	廃止届出	届出件数
生産	14	37	42	649
輸入	1	2	4	8

(エ) 肥料販売業務開始届出受理(令和 8 年 3 月 31 現在)

新規届出	変更届出	廃止届出	有効届出数
30	89	51	1,098

(オ) 肥料生産・販売事業場立入検査(令和 8 年 3 月 31 現在)

立入検査件数	収去・分析	主な検査・指導事項
115	38	表示票、帳簿、届出内容(生産業者) 内容成分(収去肥料)

(カ) 有機質土壌改良資材の利用再開申請対応：1 件（竹粉）

(キ) 肥料入荷量（流通量）調査

調査対象期間は、令和 6 年 6 月～令和 7 年 5 月までとした。

総入荷量は 72,786t で、前年比 114%であった。うち特殊肥料等の入荷量は 15,659 t で前年比 218%であった。

単位は t、()内は前年比(%)

窒素質	りん酸質	加里質	複 合	石灰質	有機質	副産肥料等	その他	指定混合
1,704 (92)	2,194 (106)	1,974 (102)	13,240 (85)	7,095 (108)	1,347 (106)	1,110 (97)	2,637 (122)	25,828 (106)

(ク) 肥料生産数量調査

令和 7 年 1 月～12 月までの 1 年間を対象に、肥料の生産数量を調査し取りまとめた。

項 目	知事登録肥料	指定混合肥料	特殊肥料	輸入特殊肥料
事業者数	21 (13)	6 (5)	494 (412)	6 (0)
銘柄数	48 (34)	14 (10)	596 (487)	11 (0)
生産数量 (t)	2,739	427	204,481	0

()内は生産・輸入実績があるもの

エ 飼料に関する業務

飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律に基づき、飼料製造業者等への指導や、販売届の受理や業者への立入検査及び収去による飼料の品質確認を実施した。また、省令等改正による鶏・豚・養魚等への牛肉骨粉使用解禁に伴う注意事項の周知を行った。

(ア) 飼料販売届出受理(令和 8 年 3 月 31 現在)

新規届出	変更届出	廃止届出	販売者総数
1	16	3	58

(イ) 飼料添加物販売届出受理(令和 7 年 3 月 31 現在)

新規届出	変更届出	廃止届出	販売業者総数
0	8	1	8

(ウ) 飼料製造・販売事業者立入検査(令和 8 年 3 月 31 現在)

立入検査件数	収去・分析	主な検査・指導事項
65	18	・届出事項、帳簿、表示(動物医薬品的表示については各家畜保健所に内容を確認)、重量検査(製造業者) ・BSE 対応ガイドライン、エコフィードガイドライン等の遵守状況 ・成分分析による栄養性及び安全性の確認(収去飼料)

オ 有機認証に関する業務

日本農林規格等に関する法律(JAS 法)に基づき、登録認証機関として有機農産物生産行程管理者の認証業務を実施した。

(ア) 業務経過

月 日	内 容
6 月 11 日、7 月 4 日、 11 月 26 日	認証書交付式
4 月 14 日	有機認証検査員委任状交付式及び第 1 回認証業務担当者会議
6 月 18 日	第 1 回認証業務講習会(受講者 13 名)
7 月 4 日、5 日	東北有機 JAS 登録認証機関合同研修会(山形県米沢市開催)
8 月 14 日	格付実績及び面積報告(農林水産省へ)
9 月 3 日	FAMIC による実地調査の立会対応(1 回目)
9 月 16 日	第 1 回公平性委員会
10 月 8 日	第 2 回認証業務担当者会議
11 月 5 日	有機 JAS 指導員研修(基礎研修) (講師対応)
11 月 6 日	FAMIC による実地調査の立会対応(2 回目)
11 月 19 日	登録認証機関内部監査
12 月 11 日	第 2 回認証業務講習会(受講者 21 名)
1 月 28 日	有機認証業務担当者研修会
2 月 18 日、19 日	認証生産行程管理者全体研修会
2 月 19 日	第 3 回認証業務担当者会議
3 月 3 日	第 2 回公平性委員会

(イ) 認証状況(令和 8 年 3 月 31 日現在)

申請受理件数	3 (155)	
受理後自ら申請を取り下げた件数	1 (5)	
新たな認証生産行程管理者数	3 (141)	
認証しなかった件数	0 (8)	
認証を取り消した件数	1 (4)	
認証を自ら取り下げた件数	7 (90)	
認証生産行程管理者数	47	個人 44、組織 3、農家総数 54
認証ほ場面積(令和 6 年度) (a)	7, 359	水田 6, 542、畑 649、その他 168

() 内は業務開始からの累計

(ウ) 有機農産物格付実績(kg)(令和 6 年度)

野菜	15, 804. 4
果樹	688. 3
米	132, 754. 0
小麦	0. 0
そば	0. 0
大豆	0. 0
その他豆類	16. 0
雑穀	0. 0
きのこ類	575, 350. 6
植物種子(エゴマ)	0. 0
香辛料(ハーブ)	87. 1
計	724, 700. 4

令和 7 年 8 月に農林水産大臣へ報告

(2) 発生予察課の業務

ア 病害虫発生予察事業

植物防疫法に基づき、病害虫の発生予察・診断、防除対策情報提供等を実施した。

(ア) 普通作物

水稻は定点調査 19 か所、巡回調査 248 ほ場、麦類は巡回調査 36 ほ場、ダイズは巡回調査 36 ほ場において病害虫の発生状況を定期的に調査した。また、予察灯 1 か所、フェロモントラップ、白色粘着板による調査を延べ 20 か所で実施し、害虫の発生活消長を調査した。

(イ) 果樹

リンゴは定点調査 8 か所、巡回調査 23 ほ場、モモは定点調査 4 か所、巡回調査 19 ほ場、ナシで定点調査 5 か所、巡回調査 23 ほ場、ブドウは定点調査 3 ほ場、カキは巡回調査 6 ほ場で、病害虫の発生状況を定期的に調査した。また、フェロモントラップ調査を延べ 21 か所、カメムシ越冬量調査を 4 か所で実施し、害虫の発生活消長を調査した。

(ウ) 野菜・花き

野菜については、キュウリは定点調査 5 か所、巡回調査 11 ほ場、トマトは定点調査 5 か所、巡回調査 11 ほ場、イチゴで定点調査 5 か所、巡回調査 20 ほ場のほか、アスパラガス、ピーマン、ネギ、ナス、ホウレンソウの巡回調査及び定点調査と、カンショ、パレイショ、ダイコン、ホウレンソウの定点調査を実施した。花きについて、キクは定点調査 4 か所、巡回調査 11 ほ場、リンドウは巡回調査 7 ほ場で、病害虫の発生状況を定期的に調査した。

また、フェロモントラップ調査を延べ 20 か所で実施し、害虫の発生活消長を調査した。

(エ) 情報の提供

病害虫発生予察情報を延べ 17 回発表し、各作物の防除対策資料として提供した。また、水稻斑点米カメムシ類、果樹カメムシ類、野菜類・花き類ハスモンヨトウの注意報と、スイカ黒点根腐病、ブドウリーフロール病の特殊報を発表した。

さらに、モモせん孔細菌病で 1 回、トマトキバガで 3 回、コナガで 1 回、モモハモグリガで 1 回、果樹カメムシ類で 2 回、リンゴ褐斑病で 1 回、オオタバコガで 1 回、果樹類ハダニ類で 2 回、トルコギキョウ葉巻病で 1 回、野菜類・花き類ハダニ類で 1 回、サツマイモ基腐病で 1 回の計 13 回の防除情報を発表した。

このほか、ホームページに各作物の病害虫発生状況、防除対策情報、BLASTAM、予察灯やフェロモントラップのデータなどの防除情報を提供した。

(オ) 国への報告事務

病害虫発生予察現況報告(13 回)、ウンカ類発生現況報告(随時)、各農作物病害虫発生面積報告(10 月、3 月)、その他病害虫発生情報等を報告した。

(カ) 病害虫防除員

農家 79 名、農協職員 41 名を委嘱し、予察灯やフェロモントラップの調査及び病害虫発生状況情報を定期的に収集した。

イ 病害虫診断同定

令和 7 年度の依頼件数は、87 件であった。

診断・同定の結果	病害	44 件
	虫害	31 件
	その他	12 件(原因不明、診断中)

ウ 侵入調査事業

重要病害虫の侵入に伴う農業生産の影響を防止するため、県内の未発生地域への重要病害虫の侵入を早期に発見し、速やかに的確な防除を実施できるよう、対象病害虫の発生を調査する。

(ア) 侵入警戒調査

a イネミイラ穂病発生状況調査

水稻の予察ほ場 4 か所において、国内では未発生のイネミイラ穂病の発生の有無を 9 月に 1 回調査した。イネミイラ穂病は、いずれの調査ほ場においても認められなかった。

b 火傷病発生状況調査

果樹(リンゴ、ナシ)の予察ほ場、定点調査 5 か所において、国内では未発生の火傷病の有無を 5 月、10 月に調査した。火傷病は、いずれの調査ほ場においても認められなかった。

c チチュウカイミバエ発生状況調査

果樹(リンゴ、ナシ)の予察ほ場、定点調査 5 か所において、誘引剤(トリメドルア剤)をスタイナー型トラップに入れ、4~10 月まで月 1 回誘殺数を調査した。チチュウカイミバエは、いずれの調査ほ場においても誘殺されなかった。

d コドリング発生状況調査

果樹(リンゴ、ナシ)の予察ほ場、定点調査 8 か所において、誘引剤(コドレルア剤)をジャクソン型トラップに入れ、4~10 月まで月 1 回誘殺数を調査した。コドリングは、いずれの調査ほ場においても誘殺されなかった。

- e ミカンコミバエ種群発生状況調査
果樹(リンゴ、ナシ)の予察ほ場、定点調査5か所において、誘引剤(メチルオイゲノール及びキュウリア混合剤)をスタイナー型トラップに入れ、4~10月まで月1回誘殺数を調査した。ミカンコミバエ種群は、いずれの調査ほ場においても誘殺されなかった。
- f クインスランドミバエ発生状況調査
果樹(リンゴ、ナシ)の予察ほ場、定点調査5か所において、誘引剤(メチルオイゲノール及びキュウリア混合剤)をスタイナー型トラップに入れ、4~10月まで月1回誘殺数を調査した。クインスランドミバエは、いずれの調査ほ場においても誘殺されなかった。
- g ウリミバエ発生状況調査
果樹(リンゴ、ナシ)の予察ほ場、定点調査5か所において、誘引剤(メチルオイゲノール及びキュウリア混合剤)をスタイナー型トラップに入れ、4~10月まで月1回誘殺数を調査した。ウリミバエは、いずれの調査ほ場においても誘殺されなかった。
- h セグロウリミバエの発生状況調査
県内5ほ場において、令和7年5月からフェロモントラップを設置し、月1回誘殺数を調査した。セグロウリミバエの誘殺は確認されなかった。
- i ウメ輪紋ウイルス(*Plum pox virus*)の発生状況調査
調査地点は県内4か所とし、苗生産園(母樹園)2か所(福島市、伊達市)と、本病が国内ではほぼウメでのみの発生であることから、ウメ生産地のある県中農林事務所農業振興普及部及び会津農林事務所会津坂下農業普及所管内にそれぞれ1か所を設定した。
苗生産園(母樹園)の調査は、ほ場で目視による病徴確認を行った後、病徴の有無によらず1か所当たり5樹を選定し、1樹から成葉5枚以上を採取して横浜植物防疫所に検体を送付し、検定を依頼した。生産園地の調査は、苗生産園(母樹園)と同様に目視調査及び試料採取後、イムノクロマト法によるウイルス検定を行った。
目視調査では、いずれの調査ほ場でも疑似症状は認められなかった。ウイルス検定の結果、すべての検体が陰性であり、本県でウメ輪紋ウイルスの発生は確認されなかった。
- j *Xylella fastigiosa* 発生状況調査
果樹(ブドウ、ナシ)の定点調査4か所において、国内では未発生の *Xylella fastigiosa* による症状の有無を7月に調査した。*Xylella fastigiosa* による症状は、いずれの調査ほ場においても認められなかった。
- k トマトキバガ発生状況調査
県内トマトほ場2か所(猪苗代町、南会津町)において、令和6年5月からフェロモントラップを設置し、5日おきに調査を行った。5月下旬から誘殺が確認され、9月から10月にかけて誘殺数はピークを迎えた。ほ場での被害は、春先から浜通り地方の周年栽培で確認され、5月下旬以降、会津地方および中通り地方の複数地点でも確認された。
- l トマト関連センチュウ類発生状況調査
侵入警戒有害動植物であるバナナネモグリセンチュウ、コロンビアネコブセンチュウ、カンキツネモグリセンチュウの3種について、発生拡大を未然に防ぐため、発生状況について調査を実施した。定点調査3か所(田村市、中島村、南会津町)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、巡回による目視調査及び農家病虫害防除員によるほ場調査を実施した。
バナナネモグリセンチュウ、コロンビアネコブセンチュウ、カンキツネモグリセンチュウの3種による被害は確認されなかった。
- m トマト関連ウイロイド類発生状況調査
ウイロイド類の侵入警戒有害動植物である CLVd、PCFVd、TCDVd、TASVd、PSTVd の5種について、定点調査3か所(田村市、中島村、南会津町)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、巡回による目視調査及び農家病虫害防除員によるほ場調査を実施した。CLVd、PCFVd、TCDVd、TASVd、PSTVd の5種による被害は確認されなかった。
- n トマト関連ウイルス類発生状況調査
ウイルス類の侵入警戒有害動植物である PepMV、ToBRFV、ToMMV、ToLCNDV の4種について、定点調査3か所(田村市、中島村、南会津町)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、巡回による目視調査及び農家病虫害防除員によるほ場調査を実施した。
PepMV、ToBRFV、ToMMV、ToLCNDV の4種による被害は確認されなかった。
- o スイカ果実汚斑細菌病の発生状況調査
県内夏秋露地キュウリほ場5か所(伊達市、二本松市、須賀川市、会津坂下)を選定し、令和6年6~9月に月1回調査した。1ほ場あたり任意の100果について、発病の有無を確認した。スイカ果実汚斑細菌病の発生は確認されなかった。
- p ジャガイモがんしゅ病発生状況調査
定点調査2か所(二本松市)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病虫害防除員による貯蔵調査を実施した。ジャガイモがんしゅ病の発生は確認されなかった。

q *Thecaphora solani* 発生状況調査

ジャガイモの病害 *Thecaphora solani* の発生状況について定点調査 2 か所(二本松市)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病虫害防除員による貯蔵調査を実施した。*Thecaphora solani* の発生は確認されなかった。

r コロラドハムシ発生状況調査

ジャガイモのコロラドハムシの発生状況について、定点調査 2 か所(二本松市)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病虫害防除員によるほ場調査を実施した。コロラドハムシの発生は確認されなかった。

s ジャガイモシストセンチュウ

定点調査 2 か所(二本松市)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病虫害防除員によるほ場調査を実施した。ジャガイモシストセンチュウの発生は確認されなかった。

(イ) 緊急防除等対象病虫害調査

a クビアカツヤカミキリの発生状況調査

県境に近い県内 4 か所(白河市、西郷村、いわき市 2 か所)において、調査時期はフラスの確認しやすい夏季に調査した。1 か所当たりサクラ 100 樹程度について、フラス及び寄生(成虫、幼虫)の有無を確認した。

一部の樹体にフラスが確認されたが、カミキリムシ類によるものではなかった。また、本種をはじめカミキリムシ類の寄生は確認されなかった。

b ジャガイモシロシストセンチュウ発生状況調査

定点調査 2 か所(二本松市)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病虫害防除員によるほ場調査を実施した。ジャガイモシロシストセンチュウの発生は確認されなかった。

c テンサイシストセンチュウ発生状況調査

定点調査 2 か所(下郷町、相馬市)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、巡回調査及び農家病虫害防除員によるほ場調査を実施した。テンサイシストセンチュウの発生は確認されなかった。

エ ベトナム向け輸出なし検疫

本県より輸出されるベトナム向けなし生果実について、海外への病虫害の侵出を防止するため、「植物防疫法」と「二国間協議に係る生果実輸出検査実施要領」に基づき輸出検疫を行った。病虫害防除所職員(4 名)が横浜植物防疫所長より栽培地検査補助員を委嘱され、輸出対象のなし生産園地(いわき市)について補助員検査を実施した。

オ 主要病虫害の発生状況

(ア) 水稻

a いもち病

本田での葉いもちの初発確認は、中通り地方で 7 月中旬、会津地方、浜通り地方で 7 月下旬だった。高温の影響によって発病が抑制され、8 月上旬の発生ほ場割合は平年より低かった。

穂いもちの初発確認日は、全域で 8 月下旬と平年並であった。9 月上旬の発生ほ場割合は、県全体で平年よりやや低かったが、中通り地方の一部で発生程度が高いほ場が確認された。

b 紋枯病

紋枯病の初発確認日は、全域で 7 月下旬と平年並であった。程度別発生ほ場割合は平年より高く、中通り地方の一部の常発地域で高温・降雨の影響によって病斑が上位葉へ進展し、発生程度が高いほ場が確認された。

c 稲こうじ病

9 月上旬の発生ほ場割合は、会津で高く、中通り、浜通りで低かった。

d ごま葉枯病

9 月上旬の発生ほ場割合は、中通り地方、会津地方で平年よりやや低く、浜通り地方で平年より高かった。

e イネミズゾウムシ

6 月下旬の発生ほ場割合は、中通り地方で平年より高く、会津地方で平年並、浜通り地方で平年よりやや高かった。

f イネドロオイムシ(イネクビホソハムシ)

6 月下旬の発生ほ場割合は、会津地方、浜通り地方で平年より高く、中通り地方では発生が確認されなかった。

g ニカメイガ(ニカメイチュウ)

幼虫の発生ほ場割合は、全域で平年並または低かった。

- h フタオビコヤガ(イネアオムシ)
8月の幼虫の発生ほ場割合は、すくい取り調査による幼虫・成虫の発生ほ場割合ともに平年より低く、発生程度も低かった。
- i イナゴ類
すくい取り調査による8月上旬、8月下旬の発生ほ場割合は、会津地方で平年並、中通り地方、浜通り地方で平年よりやや低いから低かった。
- j 斑点米カメムシ類
畦畔雑草でのすくい取り調査では、発生ほ場割合及び発生程度が平年より高かったため、7月16日付けで注意報を発表した。本田内でのすくい取り調査では、発生ほ場割合及び発生程度とも平年並だった。坪刈り調査における斑点米混入率は平年並だった。
- k イチモンジセセリ(イネツトムシ)
8月下旬の幼虫の発生ほ場割合及び発生程度は、平年より低かった。

(イ) ムギ類(令和6年産)

- a 赤かび病
6月の発病穂率は、中通り地方で平年よりやや高く、浜通り地方で平年より低く、会津地方で平年並みであった。
- b 雪腐病類
会津地方のムギ産地では、根雪期間は平年並で、雪腐病による古紙面積率は、平年より高かった。

(ウ) ダイズ

- a 紫斑病
子実調査の被害粒率は、中通り地方で平年よりやや低く、会津地方、浜通り地方で高かった。
- b ベと病
8月の発生ほ場割合は、中通り地方で平年よりやや高く、浜通り地方で平年より高く、会津地方では発生が確認されなかった。被害粒率は、中通り地方、会津地方で平年より高く、浜通り地方で平年並であった。
子実調査では、被害は全域で平年並～やや多かった。
- c 吸実性カメムシ類
9月の払落し調査では、中通り、浜通りで発生が多いほ場を確認した。被害粒率は、全域で平年より高かった。
- d フタスジヒメハムシ
9月の払落し調査では、払落し頭数は中通り地方、浜通り地方で平年よりやや少なく、会津地方で多かった。被害粒率は、中通り地方で平年並、会津地方で高く、浜通り地方で低かった。
- e マメシンクイガ
被害粒率は、全域で平年よりやや低い～低かった。
- f ウコンノメイガ
8月の幼虫による葉巻の発生程度は、全域で平年より低かった。

(エ) リンゴ

- a 斑点落葉病
新梢葉での発生は6月下旬から確認され、発生ほ場割合は平年並に推移したが、10月のみ平年より少なかった。
- b うどんこ病
5月に県中・県南で発生が確認され、発生ほ場割合は平年並であった。
- c 褐斑病
果そう葉での発生は、5月から確認され、6月まで高く推移した。新梢葉での発生は県北では6月から確認され、発生ほ場割合は7月までは平年より高く推移したが、8月以降は平年並となった。県中・県南では5月から確認され、9月まで平年より高く推移した。会津では6月から確認され、6月、8月は高く推移したが、9月以降は低く推移した。
- d 腐らん病
5月下旬の発生ほ場割合は、平年並であった。
- e 輪紋病
果実での発生は9月から確認され発生ほ場割合は平年よりやや高く推移した。
- f 炭疽病
果実での発生は9月から確認され、9月、10月の発生ほ場割合は平年よりも高く推移したが、11月はやや低かった。

- g すす点病
果実での発生は10月上旬から確認され、発生ほ場割合はやや高く推移した。
- h すす斑病
果実での発生は10月上旬から確認され、発生ほ場割合は平年よりやや高く推移した。
- i シンクイムシ類
ナシヒメシンクイのフェロモントラップへの誘殺は4月3半旬から確認され、越冬世代、第1世代の誘殺数は平年よりも多かったが、それ以降は平年並となった。果実での被害は、8月のみ確認され平年並であった。
モモシンクイガのフェロモントラップへの誘殺は、6月6半旬から確認された。果実での被害は、8月に確認され平年並に推移した。
スモモヒメシンクイのフェロモントラップへの誘殺は、会津美里町では5月1半旬から確認され平年並に推移した。国見町では6月の2半旬から確認された。果実での被害は8月から確認され、平年並に推移した。
- j アブラムシ類
新梢での寄生の発生ほ場割合は、5、6月とも平年より低かった。
- k ハダニ類
新梢葉の寄生は6月から確認され、発生ほ場割合は中通りでは平年より高く推移した。会津では8月まで平年より高く推移したが、9月のみ平年より低かった。
優占種は、県北ではおおむねリンゴハダニであったが、8月のみナミハダニであった。会津ではリンゴハダニであった。県中・県南では概ねナミハダニであったが、7月のみカンザワハダニであった中通りではナミハダニ、会津ではリンゴハダニが優占する傾向にあった。
- l ハマキムシ類
リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップへの誘殺は、5月2半旬から確認された。
リンゴモンハマキのフェロモントラップへの誘殺は、5月2半旬から確認された。
ハマキムシ類の新梢での発生は6月のみ確認され、平年並みであった。果実での発生は11月のみ確認され、平年並であった。
- m キンモンホソガ
新梢葉での発生は7月から確認され、発生ほ場割合は平年よりやや高く推移した。
- n アブラムシ類
新梢寄生の発生は5月から確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。

(オ) モモ

- a せん孔細菌病
春型枝病斑の初発確認は、4月2日(参考調査「ゆうぞら」)であった。巡回調査では、5月上旬のみで発生が確認された。新梢葉での発生は、9月下旬のみ確認され、平年より低かった。果実の発生は、確認されなかった。
- b ハダニ類
新梢葉の寄生は6月から確認され、発生ほ場割合は平年より高く推移した。優占種は、6月はカンザワハダニ、7月はクワオオハダニであり、8月はカンザワハダニ及びクワオオダニが同程度の発生であった。
- c シンクイムシ類
モモノゴマダラノメイガのフェロモントラップへの誘殺は、6月1半旬から確認され、例年並の誘殺数であった。
ナシヒメシンクイによる新梢の被害は、平年は確認されていない5月から確認された。発生ほ場割合は、福島地域では5月は平年より高く、その後は月ごとに変動しており、9月ではやや低かった。伊達地域では平年より高く推移した。
シンクイムシ類による果実被害は確認されなかった。
- d コスカシバ
主幹における羽化殻数は、平年より少なかった。
- e モモハモグリガ
2024年12月の越冬量は、平年より多かった。フェロモントラップにおける誘殺は4月2半旬から確認され、5月5半旬より第2世代が確認されたが、6月2半旬以降はほぼ見られなくなった。新梢葉の被害は5月下旬から確認され、発生ほ場割合は平年よりやや高く推移した。
- f アブラムシ類
新梢の寄生は6月に確認され、平年並であった。
- g カイガラムシ類
側枝での寄生は5月下旬から確認され、発生ほ場割合は5月下旬では平年より高かったが、10月下旬では平年よりもやや低くなった。果実被害は確認されなかった。

- (カ) ナシ
- a 黒星病
果そう基部での発生は4月中旬から確認され、5月下旬の発生ほ場割合は平年よりやや低かった。
果実での発生は6月下旬から確認され、7月下旬以降の発生ほ場割合は、やや低く推移した。
新梢葉での発生は6月下旬から確認された。発生ほ場割合は、県北では平年よりやや低く推移した。県中・県南では平年より高く推移した。浜通りでは、平年並に推移した。
 - b 赤星病
新梢葉での発生は浜通りで5月下旬から確認され、発生ほ場割合は、例年より高く推移した。県全域での発生ほ場割合は、例年並みに推移した。
 - c ハダニ類
新梢葉の発生は、県北では6月下旬に確認され、発生ほ場割合は、7月下旬以降は平年より高く推移した。県中・県南では6月下旬に確認され、7月下旬以降は平年より高く推移した。浜通りでは6月下旬から確認され、8月下旬以降は平年より高く推移した。また、県北、県中・県南、浜通りの8月の発生ほ場割合は、過去10年間で最も高かった。さらに、いずれの地域でも発生程度が高いほ場が確認され、早期落葉した園地も確認された。優占種は、県北ではナミハダニであった。県中・県南では概ねカンザワハダニであったが、9月のみナミハダニであった。浜通りではカンザワハダニであった。
 - d シンクイムシ類
ナシヒメシンクイによる果実被害は、8月下旬から確認され、平年並に推移し、前年より少なかった。
 - e ハマキムシ類
新梢被害は6月に確認され、平年並であった。果実被害は確認されなかった。
 - f アブラムシ類
5月下旬から新梢寄生が確認されたが、発生ほ場割合は平年よりやや低く推移した。
- (キ) ブドウ
- a 晩腐病
収穫直前の調査で、発生が確認されたほ場があった。
- (ク) カキ
- a 炭疽病
果実での発生ほ場割合は、平年並であった。
 - b 円星落葉病
新梢葉での発生ほ場割合は、平年よりやや低かった。
 - c アザミウマ類
チャノキイロアザミウマ及びカキクダアザミウマによる果実被害は確認されず、平年よりやや低かった。
- (ケ) 果樹共通
- a 果樹カメムシ類
今年度から4月1半旬にフェロモントラップ調査を開始した。トラップへの誘殺は4月3半旬から確認され、県北地方3地点および会津坂下町、相馬市の誘殺数は越冬世代・当年世代ともに平年より多く推移し、その他の地点は平年並以下で推移した。クサギカメムシの越冬量は、県北地方（桑折町）、会津地方（会津若松市）で平年より多かった。
リンゴの果実被害はいずれの地域も7月下旬から確認され、その後も発生ほ場割合は県北地方と会津地方は平年より高く、県中・地方は高～やや高く推移した。
ナシの果実被害は相馬地方で6月下旬から確認され、8～9月の発生ほ場割合は、いずれの地域も平年より高かった。浜通り地方は相馬地方での発生が多く、いわき地方は少なかった。
モモの果実被害は5月から確認され、7月を含めて平年より発生ほ場割合が高かった。
- (コ) 夏秋トマト
- a 灰色かび病
6月から発生が確認され、7月に降水量が少なく、発生ほ場割合は平年よりやや低かったが、8月以降は平年並に推移した。
 - b 葉かび病
7月から発生が確認され、発生ほ場割合は平年よりやや低く推移した。
 - c すずかび病

- 6月から発生が確認され、発生ほ場割合は、平年並に推移した。
- d かいよう病
6月から常発ほ場を中心に発生が確認された。
- e オオタバコガ(タバコガ類)
フェロモントラップの誘殺数のピークは、8月下旬から9月にかけて確認された。7月から被害果の発生が確認された。
- f コナジラミ類
6月から発生が確認され、7月以降発生ほ場割合は平年並に推移した。巡回調査では、複数のほ場で黄化葉巻病の発生が確認され、発病株率の高いほ場ではコナジラミ類の寄生密度も高かった。
- g アザミウマ類
7月から被害果(白ぶくれ果)の発生が確認されたが、発生ほ場割合は平年よりやや低く推移した。
- (サ) 夏秋キュウリ
- a べと病
6月から発生が確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。
- b うどんこ病
6月から発生が確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。
- c 炭疽病
6月から発生が確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。
- d 褐斑病
8月から発生が確認され、発生ほ場割合は平年よりやや低く推移した。
- e モザイク病
6月から発生が確認され、発生ほ場割合は平年よりやや高く推移した。
- f アブラムシ類
6月から寄生が確認され、6、7月の発生ほ場割合は平年並に推移したが、8月にやや高くなった。
- g ハダニ類
6月から寄生が確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。
- (シ) イチゴ(2024年定植)
- a 灰色かび病
果実被害は2月から確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。
- b うどんこ病
果実被害は12月から確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。
- c 土壌病害(炭疽病、萎黄病)
感染した苗の本圃への持ち込みにより定植直後から発生が確認され、補植しているほ場が確認された。10、11月の発生ほ場割合は平年よりやや高かったが、12月以降平年並に推移した。
- d アブラムシ類
定植直後から寄生が確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。
- e コナジラミ類
発生ほ場割合は、作期を通して平年よりやや低く推移した。
- f アザミウマ類
花への寄生は2月から確認され、3月の発生ほ場割合は平年よりやや高かったが、4月以降平年並に推移した。4月中旬から5月上旬にかけて降水量が少なく、気温も高かったため、5月は寄生度の高いほ場が確認された。主要寄生種は、ヒラズハナアザミウマとミカンキイロアザミウマであった。
- g ハダニ類
発生ほ場割合は、平年並に推移した。カブリダニ剤の放飼により、寄生密度を抑えるほ場が多くなってきている。主要寄生種は、ナミハダニであった。
- h ハスモンヨトウ
10月から発生が確認され、10月の寄生度は、平年よりやや高かった。フェロモントラップによる誘殺数は、相馬市で8月5半旬～9月4半旬に平年値を大きく上回った。

- (ス) キク
- a 白さび病
苗床からの持ち込みと思われる感染株が5月から確認された。発生ほ場割合は、栽培期間を通してやや低かった。5月は、一部ほ場で発病度の高いほ場がみられた。
 - b アブラムシ類
5、6月の発生ほ場割合は、平年よりやや高かった。7、8月の発生ほ場割合は、平年並となった。
 - c ハダニ類
5月から寄生を確認した。発生ほ場割合は、5、6月は平年並に推移したが、夏季の高温乾燥による影響で、7、8月の発生ほ場割合は平年よりやや高くなった。
 - d オオタバコガ(タバコガ類)
平年より早い5月から被害を確認した。6、7月の発生ほ場割合はやや高く推移した。また、7、8月は発生密度が高いほ場が多く散見された。
フェロモントラップによる誘殺数は、5月6半旬、8月3半旬から9月1半旬に県北地方(伊達市)で平年を大きく上回った。
 - e アザミウマ類
定植直後の5月から寄生を確認した。栽培期間中を通じ、発生ほ場割合は平年並に推移した。
 - f ナモグリバエ
5月から寄生を確認した。発生ほ場割合は、栽培期間を通して平年並に推移した。
- (セ) リンドウ(例年：2015年～2022年の8年間平均)
- a 葉枯病
5月から発生を確認した。発生ほ場割合は5～8月の期間を通して平年よりも高く推移した。また、発病程度の高いほ場も散見された。
 - b 褐斑病
6月から発生を確認しており、発生ほ場割合は平年より高く、発病程度の高いほ場も散見された。
 - c ハダニ類
5～7月の発生ほ場割合は平年並に推移したが、高温乾燥の盈虚で8月の発生ほ場割合は平年よりやや高くなった。主要寄生種はカンザワハダニであった。
 - d リンドウホソハマキ
例年よりやや早い5月中旬から成虫の飛来が確認された。発生ほ場割合は、栽培期間を通して平年並に推移したが、8月は被害度の高いほ場が多く見られた。本種による芯折れ被害は6～8月に確認された。

(3)分析課の業務

ア 農林水産物を対象とした緊急時環境放射線モニタリングの実施

災害対策基本法及び原子力災害対策特別措置法等に基づき、農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング検査を実施した。当課は、主務課が作成したサンプリング計画に基づき農林事務所等が採取した試料の放射性物質(放射性セシウム)を測定し、測定結果を原子力災害現地対策本部に報告した。

県が公表した農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング実施状況は、以下のとおりである。

食品群	品目数	基準値※2 (100Bq/kg) 以下点数	基準値※2 (100Bq/kg) 超過点数	検査結果 点数	月 別											
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
玄米※3	1	140	0	140	0	0	0	0	16	118	6	0	0	0	0	0
穀類(玄米除く)	6	168	0	168	0	0	4	38	12	8	28	41	29	5	0	3
野菜	167	1,396	0	1,396	145	183	192	310	128	54	135	111	69	36	12	21
果実	33	395	0	395	0	4	25	32	63	105	107	50	8	0	1	0
原乳	1	72	0	72	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
肉類	6	1,418	0	1,418	138	117	146	104	145	159	101	131	93	92	83	109
鶏卵	2	74	0	74	5	8	4	9	4	8	4	8	4	8	4	8
はちみつ	1	39	0	39	0	1	37	1	0	0	0	0	0	0	0	0
牧草・飼料作物	—	609	0	609	0	32	110	45	46	103	134	74	52	4	7	2
水産物(海産)※4※5	172	3,238	0	3,238	268	311	293	261	91	250	375	316	300	214	319	240
水産物(河川・湖沼)※5	11	156	1※7	157	21	31	14	13	8	4	10	4	0	0	0	52
水産物(内水面養殖)	5	20	0	20	1	4	4	2	0	0	2	3	1	1	2	0
山菜(野生)	16	297	0	297	107	141	19	7	0	0	0	0	1	1	4	17
山菜(栽培)	2	98	0	98	53	43	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
きのこ(野生)	62	110	0	110	0	0	0	6	6	15	65	17	1	0	0	0
きのこ(栽培)	31	481	0	481	21	36	42	18	20	56	169	71	29	9	5	5
果実(野生)	1	5	0	5	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0
樹実類	2	16	0	16	0	0	0	0	0	2	6	5	2	0	0	1
合 計	519※6	8,732	1	8,733	765	917	898	852	545	888	1,153	837	595	376	443	464

- ※1 出荷・販売用の品目を対象に実施した検査(出荷制限等品目の解除に向けた検査を除く)
- ※2 食品衛生法における食品の基準値(セシウム134、セシウム137の合算値) (一般食品)100Bq/kg、(牛乳)50Bq/kg
- ※3 玄米のモニタリング検査は、米の全量全袋検査を実施している7町村を除く地域で実施
(令和7年度米の全量全袋検査実施7町村:富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村、川俣町(旧山木屋村))
(米の全量全袋検査の結果:ふくしまの恵み安全対策協議会 <https://fukumegu.org/ok/contentsV2/>)
- ※4 ブワイガニ(オス)、ブワイガニ(メス)はそれぞれ1品目として集計
- ※5 シロザケ(筋肉)、シロザケ(精巣)、シロザケ(卵巣)はそれぞれ1品目とし、「海産」と「河川・湖沼」のそれぞれにおいて集計
- ※6 シロザケ(筋肉)、シロザケ(精巣)、シロザケ(卵巣)は、品目数合計では「海産」と「河川・湖沼」の区別をしない
- ※7 基準値超過は、イワナ1件

●出荷制限等品目の解除に向けた検査(令和7年度公表)

食品群	品目数	基準値 (100Bq/kg) 以下点数	基準値 (100Bq/kg) 超過点数	検査結果 点数	月 別											
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
野菜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
果実	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水産物(海産)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水産物(河川・湖沼)	3	276	1※8	277	2	3	0	35	54	53	60	70	0	0	0	0
山菜(野生)	2	76	0	76	76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
きのこ(野生)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
きのこ(栽培)	1	24	0	24	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0
合 計	6	376	1	377	78	3	0	35	54	77	60	70	0	0	0	0

※8 基準値超過は、既に国から出荷制限の指示が継続されているヤマメ1点

●食品群の区分方法について

詳細は、「ふくしま復興情報ポータルサイト」の「これまでのモニタリング検査結果【年度別集計】」参照
(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/ps-monthly-report.html>)

イ その他検査の実施

出荷等制限品目の解除可否を判断する等、上記アの検査に資するため、県の自主的な検査を実施した。

検査名	検査実績	検査の概要
事前確認検査	1,109点	農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング検査の品目のうち、出荷等制限品目の解除可否を判断する検査等
その他の検査	87点	農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング検査の他に主務課が必要とし、環境保全農業課が認める品目等の検査

ウ 放射性物質測定技能試験

測定・分析の技能の維持及び向上のため、各種技能試験を実施した。

参加した精度管理	実施主体	検査項目	評価結果
IAEA-TERC-2025-01 World Wide Open Proficiency Test Exercise	国際原子力機関(IAEA)	Cs-134、Cs-137 Co-60	良好
放射能測定技能試験(RacMAL-PT-2025)	日本分析センター	Cs-134、Cs-137	良好
福島県放射能分析精度管理事業	福島県環境創造センター	Cs-134、Cs-137	良好

2 有機農業推進室の業務実績

(1) 有機農業技術実証の取組

各地方の実態を踏まえた推進活動を展開するため、有機栽培の新たな技術や地域の優良技術に関する実証ほを県内6か所に設置した。

No	作物	実証地区	担 当	実証内容	結 果
1	水稻	郡山市	農業総合センター 有機農業推進室	水稻有機栽培における晩植によるクログワイの抑草効果と収量・品質確保の実証	6月26日に移植作業を実施した結果、移植前後の代かきと機械除草の実施により、クログワイの発生を抑制することができ、精玄米重で約500kg/10aを確保できた。 一方、移植前に発生したクログワイ等の雑草を土壌中にすき込んだことで、養分が供給され生育後半に倒伏が発生した。その結果、登熟歩合の低下や青未熟粒・その他未熟粒の発生及び玄米タンパク質の増加が見られた。
2	エゴマ	田村市	農業総合センター 有機農業推進室	エゴマ有機栽培に有効な育苗資材と有機質肥料の検証	農薬不使用でも、いずれの区もネキリムシの被害は少なく、補植により十分対応でき、70kg/10a以上の収量が確保された。72穴セルトレイの早播きでは、被害を抑制できたが、有機JAS適合の育苗培土を多くするため経費がかさみ、128穴セルトレイ育苗が補植等の作業労賃を加味してもかかり増し経費は安くなった。
3	水稻	昭和村	会津農林事務所 農業振興普及部	高冷地における水稻紙マルチ栽培の適応性の検証	標高700mに実証ほを設置した結果、移植後2週間程度は気温の低い時期があったが、慣行栽培と比べ、生育の遅延はほぼ見られなかった。高温・干ばつにより出穂期に用水が不足した影響で整粒歩合はやや低くなったが、収量は365kg/10aで目標を上回り、食味値も85と良好であった。
4	にんじん	会津若松市	会津農林事務所 農業振興普及部	高分子ポリマー及びマルチムギ利用によるにんじんの発芽等への影響	8月8日にニンジンシーダーテープで播種後、9月初旬まで降雨のない状態が続いたため、適正量とされる2~5kg/10aのポリマー土壌混和では、有効株率や収量への効果が確認できなかった。 マルチムギについても、生育初期から高温・干ばつ傾向で十分な根量が確保できず、降雨により病害が蔓延したため、マルチとして活用できる状態には至らなかった。
5	水稻	南相馬市	相双農林事務所 双葉農業普及所	液肥「エキタン有機」追肥による収量品質確保の実証	1回処理では、2回処理より収量はやや少なくなったが、タンパク質含量が低く、食味値も良好だったことから、良食味米の生産につながった。また、作業面でも追肥作業が1回で済むことから省力的であった。
6	オクラ	檜葉町	相双農林事務所 双葉農業普及所	オクラ有機栽培における自家生産肥料による長期取りの実証	元肥と追肥に市販の有機質肥料を使用した区では、生育初期の収穫量が多く、総収穫量も多くなった。 一方、元肥に自家肥料、追肥に自家液肥あるいは市販の有機質肥料を使用した両区でも、7月下旬から10月下旬までオクラを長期収穫することができ、品質にも大きな差はなかった。

(2) 有機農業者組織への活動支援

有機農業者組織への活動支援を次のとおり行った。

対象組織名	支 援 内 容	活 動 月 日
福島県有機農業ネットワーク	総会	6 月 19 日
	第 1 回定例会	6 月 9 日
郡山環境保全農業研究会	研修会（山形県鶴岡市）	7 月 24 日
	第 2 回定例会	10 月 27 日
	第 3 回定例会	2 月 20 日
	総会	3 月 23 日
やまろく米出荷協議会	米作り反省会	12 月 20 日
オーガニックふくしま安達	総会	2 月 17 日
二本松市循環型農業推進協議会	総会	5 月 30 日
ZERO ベジ	役員会	8 月 26 日
	「「ふくしまプライド。」県産農林水産物販売力強化支援事業」申請支援	8 月 29 日 9 月 2 日
	臨時会	1 月 9 日
認定研修機関 0 氏	「ふくしま有機農業ひとづくり強化支援事業」申請支援	7 月 7 日 14 日 15 日

(3) 栽培技術研修会等の開催

有機農業に関する知識の習得及び栽培技術向上を図るため、研修会等を次のとおり開催した。

開催月日	場 所	研修名	内 容	参加者数
6 月 13 日	農業総合センター・郡山市内	第 1 回中通り地方有機農業研修会	採用 1～3 年目の普及員等を対象に有機農業の講義及び現地研修 座学：水稻の有機栽培技術 見学：センター有機水田 現地研修：(有)仁井田本家あぐり	5 名
8 月 6 日	農業総合センター・郡山市内	第 2 回中通り地方有機農業研修会	採用 1～3 年目の普及員等を対象に有機農業の講義及び現地研修 座学：野菜の有機栽培技術 見学：センター野菜有機ほ場 現地研修：(有)ニッケイファーム	8 名
12 月 5 日	農業総合センター	環境にやさしい農業セミナー	講演 「水稻有機栽培で反収 10 俵、食味値 95 点を達成した土づくりの秘訣」 講師 一般社団法人日本有機農業普及協会 BLOF インストラクター 西田 聖氏	105 名

(4) 有機農業相談会の開催

有機農業の新たな担い手を確保するため、各地域有機農業推進チームが連携し、相談会を開催した。

開催月日	場 所	相談会名	相談者数
11 月 24 日	ビッグパレットふくしま	ふくしま農業人フェア in 郡山 (有機農業相談コーナー)	6 組 7 名
11 月 25 日	田村農業普及所	田村地方有機農業相談会	1 名
11 月 26 日	伊達農業普及所	伊達地方有機農業相談会	2 名

(5) 理解促進・販路拡大に向けた取組

消費者等に対し、有機農業への理解促進を図るため、次の取組を実施した。

開催月日	場 所	イベント名	内 容	参加者数
7 月 10 日	福島市	福島学院大学短期大学 学生向け理解促進講座	有機農業・有機農産物の概要や本県の有機農業推進活動等に関する講義に加え、生産者より有機農業の取組について講義を行った。併せて、有機栽培された米及び野菜の試食を行った。 講師：石澤農園 石澤 孝明氏	学生 22 名
9 月 5 日 6 日	農業総合センター	親子野菜収穫体験	農業総合センターまつりで、親子を対象に有機農業の説明と有機栽培された野菜の収穫体験を行った。	親子 21 名
10 月 2 日	二本松市	桜の聖母短期大学学生 向け理解促進講座	有機農業・有機農産物の概要や本県の有機農業推進活動等に関する講義に加え、生産者より有機農業の取組について講義を行った。併せて、有機野菜の収穫体験を行った。 講師：ななくさ農園 関 元弘氏	学生 12 名
1 月 15 日	郡山市	郡山女子大学短期大学 部学生向け理解促進講座	有機農業・有機農産物の概要や本県の有機農業推進活動等に関する講義に加え、生産者より有機農業の取組について講義を行った。併せて、有機栽培された野菜の調理・試食を行った。 講師：(有)ニッケイファーム 大竹 秀世氏	学生 29 名

(6) 広報誌「オーガニック通信」の発行

有機農業推進のための各種情報を掲載した広報誌を 3 回発行した。

第 1 号 (7 月 3 日発行)

第 2 号 (11 月 10 日発行)

第 3 号 (3 月 23 日発行)

(7) 農業総合センター農業短期大学校での有機農業の講義・研修の実施

ア 本科 2 学年の学生 34 名に対して、6 月から 7 月にかけて 7 回の講義を行った。

イ 就農研修 (中級) 有機農業講座の受講生 8 名に対して、研修を実施した。

6 月 4 日 有機農業の基礎、ぼかし肥料づくり実習 (センター内)

6 月 13 日 水稻有機栽培に関する講義・現地研修 (センター内、郡山市有機現地ほ場)

8 月 6 日 野菜有機栽培に関する講義・現地研修 (センター内、郡山市有機現地ほ場)

(8) 有機農業推進担当者等連携会議の開催

環境にやさしい農業拡大推進事業の円滑な推進や有機農業推進に係る普及活動の進捗状況等の共有を目的とし、次のとおり開催した。

回	開催月日	内 容
第1回	4月9日	有機農業の推進体制について 環境にやさしい農業拡大推進事業について 有機農業担当者等連携会議の開催について オーガニック通信の発行について
第2回	7月11日	中通り地域の環境にやさしい実証ほ見学 福島県有機農業推進チームの体制について 環境にやさしい農業拡大推進事業について
第3回	8月5日	浜通り地域の環境にやさしい実証ほ見学 環境にやさしい農業拡大推進事業について
第4回	9月11日	会津地域の環境にやさしい実証ほ見学 環境にやさしい農業拡大推進事業について
第5回	3月26日	令和7年度試験研究成果について 令和7年度普及指導活動実績について 次年度以降の有機農業の推進について 令和8年度有機関連補助事業等について

(9) 有機農業推進体制の強化

各地域有機農業推進チーム打合せ (5/15, 16, 20、9/1, 2, 9)